

● 2way/3way スピーカ・システムによるバイアンプ駆動予備実験とその結果

◇実験経過

宇多はバイワイヤ対応 2way スピーカ・システム二系統、および 3way スピーカ・システムについては並列接続ネットワークをウーファ対応/スコーク・ツイータ対応に二分割してバイワイヤ対応に改造し、都合三系統のスピーカ・システムについて、真空管式メインアンプ二系統によるバイアンプ駆動実験をおこなってきました。

◇実験結果概要

アンプ共用に比べ、ツイータ(3way はツイータ+スコーク)およびウーファの相互影響が取り除かれ、低歪みにて音量増加できる効果を得ました。

● 例会会場常設タンノイモニタのバイアンプ駆動実験とその結果

◇実験経過

対象スピーカ・システムが、二台の 38cm ユニットを装備しており、予備実験にもちいたスピーカ・システムとは異なる構成であるため、効果予測は困難なるも、類似の改善効果を期待してバイアンプ駆動実験を提案し、受理されました。

鳥居会員のご協力を仰ぎ、低音駆動には会場常設ラックスマン式メインアンプ、高音駆動には会所有設備のマッキントッシュ式 C2100 メインアンプを使用して、実験を行いました。

◇実験結果概要

聴感上、アンプ共用では二ユニット相互に悪影響を及ぼしあう状態で騒音感が残り、バイアンプでは二ユニットが協調に転じ、同一音量では騒音感が減少しました。色気～華やかさの加減は、同軸付ユニット側の高音調整、またはプリアンプにての高音調整により可能と思われます。

以上